慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	法学研究第三十七巻（昭和三十九年自一号至十二号）総目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1964
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.37, No.12 (1964. 12)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	板倉卓造先生追悼論文集
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19641215-0322

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

法学研究　第三十七巻（昭和三十九年自一号至十二号）総目次

論説

	号数	頁	通頁	執筆者
明治六年太政官布告第六十五号の効力……——最高裁判所判決に対する一異見——	一	一	三	手塚　豊
死刑存置論……	一	三九	三九	青柳文雄
死刑廃止論の立場……	一	六二	六二	宮沢浩一
信託行為の一考察……——信託法研究ノートから——	二	一	一三三	田中実
新株引受権法序説（一・二完）……	二・三	一四・一八	一四六・三〇四	阪埜光男
政治の行動的研究……——その展開と問題——	二	四八	一八〇	内山秀夫
アメリカにおける法人の裁判籍……	三	一	二八七	平良
第二次奉直戦争と日本……	三	四八	三三四	池井優
看護社会学の対象領域と方法……	四	一	四〇一	米山桂三
現代アフリカとパン・アフリカニズム……——アフリカにおける主体性の問題を中心として——	四	五一	四五一	小田英郎
中ソの「人民民主主義」論（一・二・三完）……——中ソ関係の一考察——	四・五・六	七五・一二・五	四七五・四七九	平松茂雄

ドイツ・ワイマール時代における反民主主義政治思想……五　一　五二七　多田真鋤
いわゆる請負耕作の類型と制度化について……六　一　六三五　宮崎俊行
最近のソヴェト国家理論……六　二六　六六〇　中沢精次郎
——A. K. Белых の論文「国家枯死の弁証法について」を中心として——
中華民国訓政時期約法の制定と蔣介石……七　一　七四五　石川忠雄
近代化の諸過程について……七　一七　七六一　十時厳周
——近代化に関する通文化的研究のための作業仮説——
アジア・アフリカ・ブロックと国際連合……七　三九　七八三　松本三郎
——その投票行動の研究——
企業内組合と労使協議制……八　一　八四五　峯村光郎
——労働法からみた労使協議制の在り方——
公共の福祉の構造と労使関係……八　二三　八六七　川口実
西ドイツにおける経営協定と労働協約……八　五一　八九五　正田彬
——経営組織法の性格にふれて——
フランス職業組合に関する一八八四年法の制定過程……八　七一　九一五　宮本安美
——下院本会議までを中心として——
ボン基本法における基本権喪失条項の意義について……九　一　九六五　田口精一
明治末期の労働運動と社会主義理論との関係……九　一九　九八三　中村勝範
——明治四十年を中心に——
裁判上の和解における「争」と「互譲」……九　五二　一〇一六　石川明
命名の法理……十　一　一〇七一　田中実
委付による保険金支払の損害塡補性……十　二〇　一〇九〇　倉沢康一郎

——株券郵送事故損害をカバーするための保険契約の提唱を契機として——
後進国における社会経済的発展 …… 十 五四 一一二四 川合隆男
——工業化過程の動態についての分析枠試論——
行政強制 …… 十一 一 一一八三 金子芳雄
——とくに米国法制を中心として——
訴訟上の和解と条件 …… 十一 一六 一一九八 石川明
政治的近代化の理論と問題 …… 十一 二八 一二一〇 内山秀夫
ラテンアメリカの現代国際法に対する貢献について …… 十一 六七 一二四九 斉藤恵彦
福沢諭吉の政体論 …… 十二 一一 一三二七 潮田江次
——覚書「福沢諭吉の政治学」のうち——
エラト及びバレンタイン号事件 …… 十二 四三 一三五九 前原光雄
被爆地広島にみる社会変動 …… 十二 五七 一三七三 米山桂三
議院内閣制と大統領制 …… 十二 九九 一四一五 藤原守胤
満洲事変の一考察 …… 十二 一七五 一四九一 中村菊男
——その初期段階の分析——
日本に於ける親英主義の沿革 …… 十二 二一三 一五二九 内山正熊
中国における国内情勢と外交政策 …… 十二 二四九 一五六五 石川忠雄
——一九五七年以降を中心として——
新聞史上における「時事新報」の位置と性格 …… 十二 二六三 一五七九 生田正輝
エルンスト・トレルチの政治思想 …… 十二 二八九 一六〇五 多田真鋤

資料

ボン基本法における死刑の廃止について……一　一〇〇　一〇〇　田口精一
死刑の存廃に関する資料……一　一一二　一一二　宮沢浩一
薗田守良とその律令学……二　八六　二一八　利光三津夫
——特にその著『新釈令義解』について——
アルトゥール・カウフマン『現代の法哲学的状況について』……五　四二　五六八　宮沢浩一
内閣文庫本「明法条々勘録」の研究……六　六一　六九五　利光三津夫
関市令伝本の由来……十　八三　一一五三　利光三津夫
西ドイツにおける政治学研究の状況……十一　七九　一二六一　多田真鋤
——ハンス・マイヤーの所説を中心として——

判例研究

【商法】三六　約束手形上になした支払拒絶宣言の効力……二　九六　二二八　倉沢康一郎
【労働法】一　朝日自動車事件……二　一〇二　二三四　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一〇……二　一〇七　二三九　民事訴訟法研究会
【商法】三七　少数株主権の発動による株主総会をめぐる諸問題……三　七六　三六二　松岡和生
【労働法】二　小野運送事件……三　九〇　三七六　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一一……三　九六　三八二　民事訴訟法研究会
【商法】三八　一部の取締役らの不法な会社財産処分行為とそれをめぐる責任……四　九〇　四九〇　大賀祥充
【労働法】三　金星自動車事件……四　九七　四九七　社会法研究会

【最高裁民訴事例研究】一二……四　一〇三　五〇三　法民研事究訴会
【労働法】四　国労南近畿地本天王寺保線区分会事件……五　七三　五九九　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一三……五　七八　六〇四　法民研事究訴会
【労働法】五　川崎製鉄葺合工場事件……六　八二　七一六　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一四……六　八六　七二〇　法民研事究訴会
【商法】三九　株主総会招集通知に示される「会議ノ目的タル事項」について……七　七五　八一九　米津昭子
【労働法】六　合化労連製鉄化学事件……七　八〇　八二四　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一五……七　八四　八二八　法民研事究訴会
【労働法】七　全逓名古屋中郵事件……八　九六　九四〇　社会法研究会
【民法】三四　相続回復請求権の時効……九　七二　一〇三六　内池慶四郎
【商法】四〇　「見せ金」による株金払込の効力及び共通の代表取締役を有する会社間の取引……九　七八　一〇四二　倉沢康一郎
【労働法】八　三菱樹脂事件……九　八四　一〇四八　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一六……九　八九　一〇五三　法民研事究訴会
【労働法】九　利昌工業事件……十　九五　一一六五　社会法研究会
【最高裁民訴事例研究】一七……十　九九　一一六九　法民研事究訴会
【刑法】一〇【民法】三五　表見代諾養子縁組における養子の追認がないとして、尊属殺人罪の成立が否定された例……十一　九一　一二七三　人見康子
【労働法】一〇　札幌自動車事件……十一　一〇二　一二八四　中谷瑾子
【最高裁民訴事例研究】一八……十一　一〇五　一二八七　社会法研究会
法民研事究訴会

紹介と批評

L・シアピロ編『ソ連とその将来』……二　一一五　二四七　中沢精次郎
H・B・シャラービー著『現代中東の政治』……二　一二一　二五三　遠峰四郎
J・F・ノイロール著　山崎章甫・村田宇兵衛訳『第三帝国の神話』……三　一〇一　三八七　多田真鋤
中村菊男著『松岡駒吉伝』……三　一〇五　三九一　中村勝範
浦田一晴著『責任保険法論』……三　一〇八　三九四　倉沢康一郎
A・インケレス共著・生田正輝訳『ソヴェトの市民』……四　一一五　五一五　堀江湛
L・A・バアウアー共著
A・アパドライ編『中国の侵略とインド』……四　一一九　五一九　松本三郎
S・メイ共著
G・プラサ『ラテン・アメリカにおけるユーナイテッド・フルーツ・カンパニー』……五　九〇　六一六　賀川俊彦
L・I・ブレドヴォルド著『啓蒙主義のすばらしい新世界』……五　九六　六二二　奈良和重
C・ギアツ編『古い社会と新しい国家』……五　九九　六二五　内山秀夫
中村菊男著『新版近代日本の法的形成』……六　一〇一　七三五　沼正也
A・リブキン著『アフリカの登場と世界』……六　一〇六　七四〇　小田英郎
ブライアリー・ウォルドック著『国際法』（第六版）……七　九〇　八三四　中村洸
レント＝ヤウエルニック著『民事訴訟法』（改訂第十一版）……七　九五　八三九　石川明
J・イートン著『核時代における社会主義』……七　九七　八四一　奈良和重
B・サイモン編者『マルクス主義の挑戦』
D・フェルマン著『アメリカ憲法における結社の権利』……八　一〇三　九四七　小林規威
O・カーン・フロイント他著『ヨーロッパの労働法――共同市場を中心として』……八　一〇七　九五一　原秀男
T・ラム著『労働協約の当事者』……八　一一六　九六〇　金子晃

D・G・ロール著『ドイツにおける社会的自由主義の起源』……九　九六　一〇六〇　多田真鋤
中村菊男著『戦後民主的労働運動史』……九　一〇二　一〇六六　吉田忠雄
R・タッカー著『ソヴエトの政治思想』……十　一〇六　一一七六　中沢精次郎
ラテン・アメリカ協会編『ラテン・アメリカの歴史』……十　一〇八　一一七八　賀川俊彦
E・W・バタスン著『科学時代における法』……十一　一二一　一三〇三　川口実
間宏著『日本労務管理史研究』……十一　一二四　一三〇六　十時厳周
土屋清監修、林知己夫・共著『日本のホワイト　カラー』……十一　一三〇　一三一二　堀江湛
寿里茂・鈴木達三

特別記事

慶應義塾大学名誉教授板倉卓造先生追悼記事……二　一二三　二五五
板倉卓造先生略歴……十二　三一三　一六二九
板倉卓造先生著作目録……十二　三一五　一六三一